

厚木商工会議所 2024年度(令和6年度)中小企業景気動向調査報告書 2024年度を振り返って

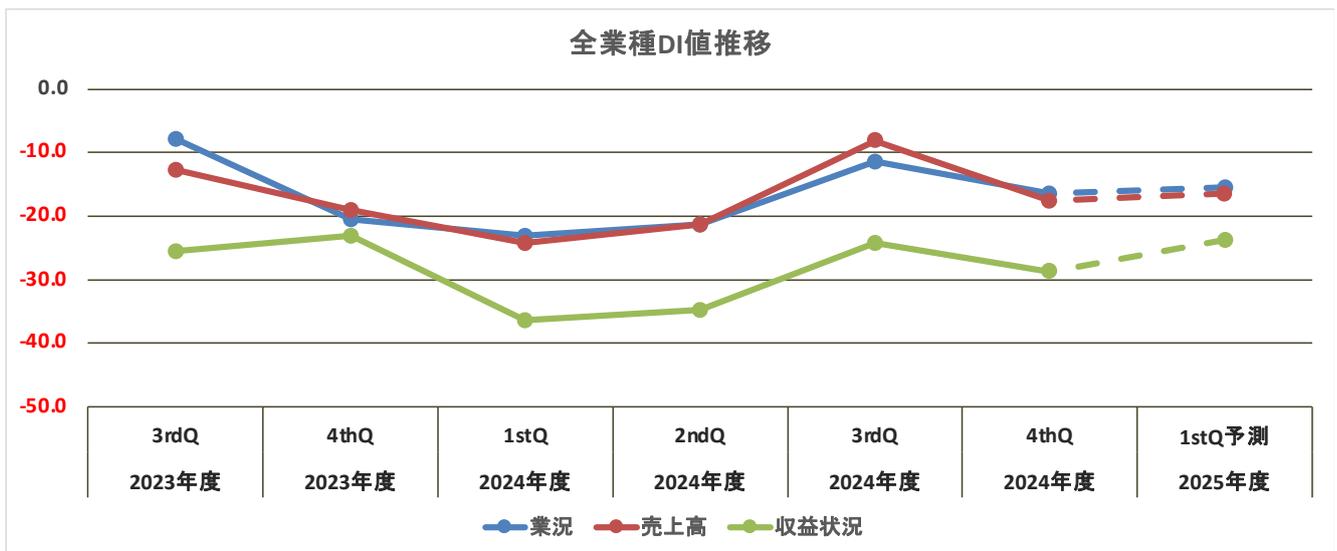
厚木商工会議所では、厚木市内中小企業のうち各業種(製造業、建設業、運輸業、小売業、飲食業、卸売業、不動産業、サービス業の8業種)ごとに無作為に抽出した事業所に四半期ずつアンケート調査を実施してまいりました。

今回は、令和6年度分(2024年度第1四半期~第4四半期)に実施した4回の調査を集計しましたのでその結果を報告いたします。

※各調査では、それぞれ250~300のご回答を頂きました。ご多用の中ご協力誠にありがとうございます。

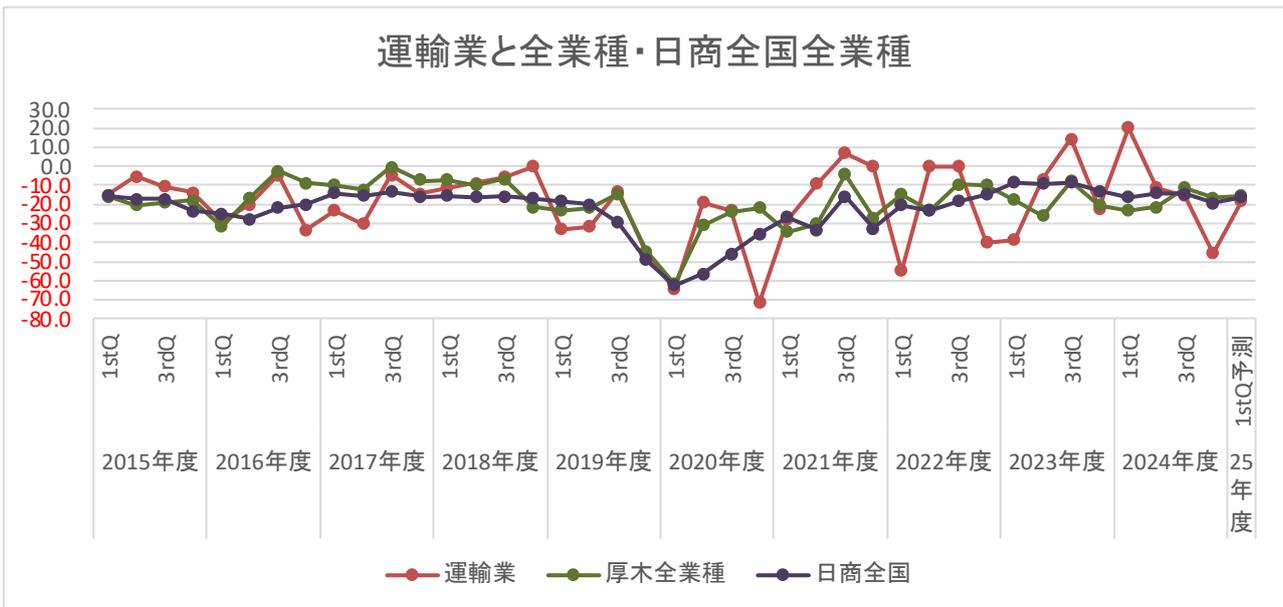
※報告書内で記載しております経過グラフでは、該当業種と厚木市全業種、日商L O B O調査全国平均のものをそれぞれ並べ関連性を参照しております。

1、全業種(上記市内8業種の総合D I 値)



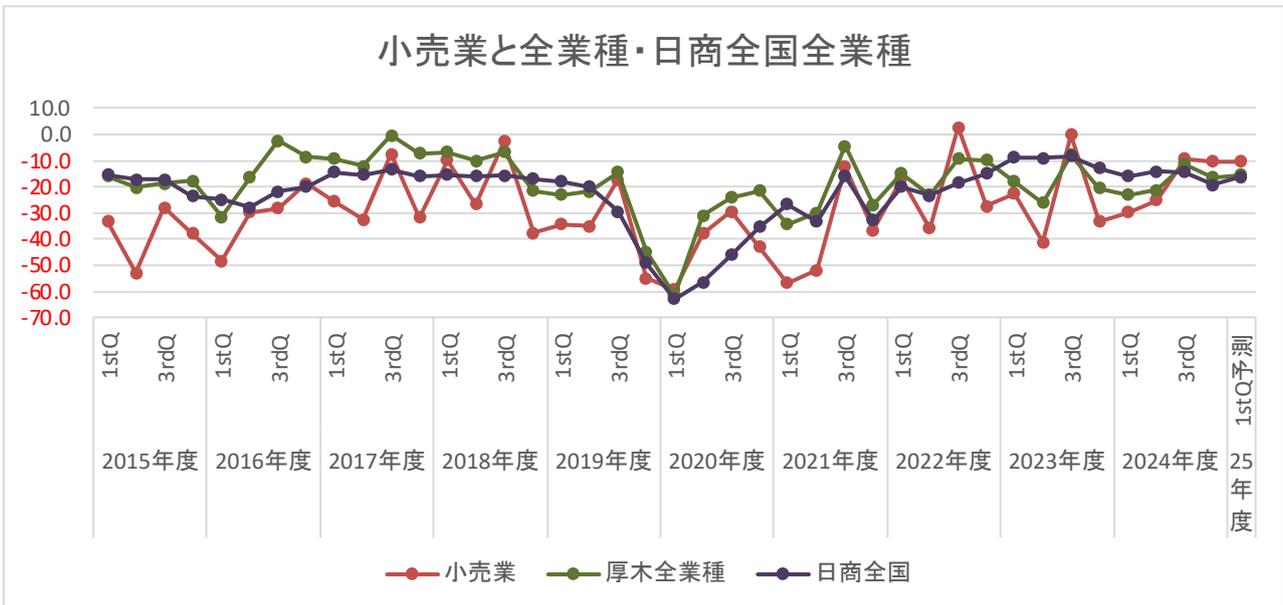
全業種D I 値推移をみると、2023年度第3四半期から第4四半期にかけて「業況」「売上高」「収益状況」いずれも減少傾向が続いている。2024年度第1四半期ではさらに悪化しているが、第2四半期以降は全項目で持ち直しの兆しが見られ、特に「業況」と「売上高」は2024年度第3四半期から回復が見えてきたところであった。一方、「収益状況」は他項目よりも回復が遅れ、依然として低い水準にとどまっている。世界的な円安、ウクライナ情勢、燃料費高騰といった外部環境の影響が企業経営に重くのしかかっている状況が続いている様子である。今後も物価上昇に対して実質所得が追いつかない厳しい環境が続く見通しで、経営環境の変化に柔軟に対応する必要がある。

3) 運輸業



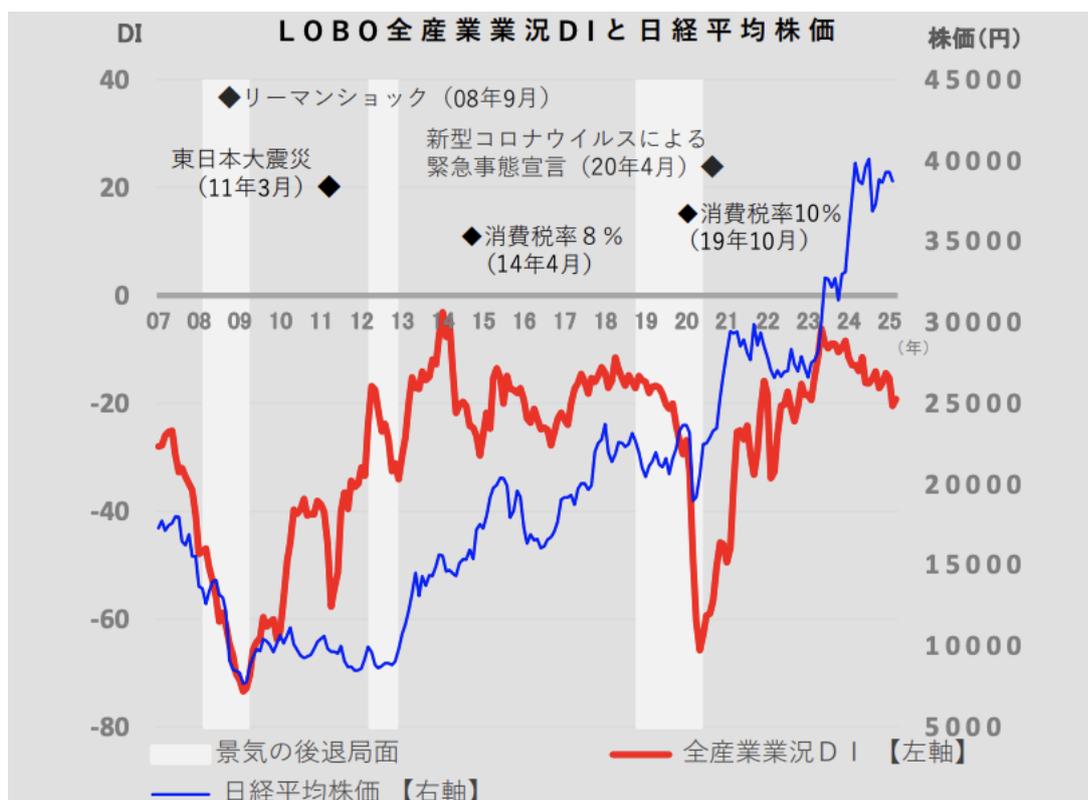
厚木市の運輸業DIは、2015年度以降、厚木市全業種や日商全国全業種と比較して変動幅が非常に大きい特徴がある。特に年度初めや年度末に大きく落ち込み、中間期で持ち直すパターンが繰り返されている。これは、厚木市の運輸業が中堅企業中心で地域密着型のため、顧客企業の年度切り替えに伴う需要の波に十分対応しきれないこと、統計的なバラツキも大きいことが要因と考えられる。今後は2024年度問題（働き方改革関連法等）への対応が業界全体の課題となるため、運輸各社は柔軟かつ計画的な対応策の検討が一層求められるだろう。

4) 小売業



四半期ごとに変動を繰り返してきた感のある小売業であるが、今年度は比較的順調に改善傾向が続き、年度後半は厚木地区の全業種の景況感と、LOBO 調査結果の全国全業種の数値を上回る結果となった。2024年四半期連続で LOBO 調査結果の全国全業種のDI値を上回ったのは、調査開始以来初めてのことである。この状況がこのまま持続してくれるのか注視していく必要がある。

(参考資料) (日商2025/3/31付LOBO調査結果より抜粋資料)



業況DI (※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合)

	2024年	2024年			2025年			先行き 見通し
	3月	10月			11月	12月	1月	
全産業	▲ 12.9	▲ 17.2	▲ 16.3	▲ 14.4	▲ 15.4	▲ 20.5	▲ 19.2	▲ 16.1
建設	▲ 15.6	▲ 11.8	▲ 12.6	▲ 11.3	▲ 10.6	▲ 16.7	▲ 15.6	▲ 17.2
製造	▲ 14.8	▲ 22.0	▲ 20.4	▲ 21.4	▲ 20.7	▲ 25.0	▲ 24.7	▲ 17.6
卸売	▲ 17.4	▲ 26.1	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 17.2	▲ 19.5	▲ 17.6	▲ 18.9
小売	▲ 17.9	▲ 24.1	▲ 23.2	▲ 20.2	▲ 19.7	▲ 28.5	▲ 23.1	▲ 19.4
サービス	▲ 3.8	▲ 6.9	▲ 8.5	▲ 3.4	▲ 9.4	▲ 13.0	▲ 13.9	▲ 10.0